

郷土研通信



オオバナノエンレイソウ
シロバナ、カワユなど冠名をつけて
呼ばれる種類がある。

発行：てしかが郷土研究会 北海道川上郡弟子屈町中央3丁目2-10
発行者：松橋 秀和

5月例会

総会の未審議事項

先月開催された総会において審議されなかった5年度決算、6年度予算（案）が提案されました。

・5年度決算（別紙）は承認されました。

・6年度予算（案）は、概ね承認されましたが、繰越金全額を経常経費とはせず一部を特別会計として積立をしようか、提案がありました。再度予算書を作成して例会で審議することとしました。

5月例会議題

ホームページの開設

安藤氏から別紙により説明されました。

会員から

- ・会員向けページは不要な情報は載せず、会員以外も閲覧できるようにしては。
- ・専用のパソコンを用意す

るのが望ましいが、当初は個人のパソコンで運用を開始して、状況を判断して用意する。

・摩周観光協会が開設している「弟子屈なび」で閲覧できる「歴史写真館」を当会の管理としては、この意見がありました。

「郷土研通信」の配布

「郷土研通信」を公民館等で配布しては？と総会で提案のありました。会員配布用から個人情報省いたものを当初は五〇部程度を印刷して様子をみてはどうかの意見がありました。

種市資料の移動日程

社会教育課と日程を調整中で、協議がまとまり次第お知らせします。

辻谷氏所蔵の蔵書見学

辻谷氏からは見学に来るのはいつでも良い、とのこと。また、会員から町内の「チャシ跡」見学も併せて行ってはどうか、との

意見がありました。

そこで、日程を六月一六日（日）の午前中に辻谷氏蔵書見学、午後から「チャシ跡」見学を実施するよう進め、再度会員に連絡をします。

荻野峻宏さん著

『潮風トレイル体験記』の冊子化

以前に勉強会で報告された『潮風トレイル体験記』を荻野さんが文書にされられました。これを冊子にするように編集し、提供される写真を加えて、会員に配布したい、と考えています。

「今、よみがえる『阿寒国立公園の三恩人』の世界」

種市佐改著『阿寒国立公園の三恩人プラス』が発売されました。これを受けて去る、五月一二日に釧路市博物館で講演会が開催されました。講演会では、三名の編集人の一人松橋さんが「種市佐改と永山在兼を結ぶ道」と題して講演をされました。勉強会でも紹介したい、と

のことです。

勉強会

演題

「松浦武四郎さんの

現代の武四郎さんとイソリツカラの心友物語を添えて」
講師 齋藤敬子さん

お話しが四回目となりました。武四郎の『久摺日誌』は旧暦の四月で新暦の五月、ちょうど今どきのころです。今回は、摩周岳登山から屈斜路コタン滞在のところまでを話されました。

齋藤さんは、アイヌ民族の人たちにとって「山」とは、決して「ピークハント（登頂を目指す）」ではなく、あくまでも食糧調達の場所、地名に「カムイ」とつく所は、人間が立ち入る所ではない、と話されました。また、山本多助エカシが記述された自筆原稿から、武四郎と屈斜路コタンの人たちとのちよつとした認識の違いから口論となったが、

すぐに双方が了解したエピソードを紹介してくれました。

次回の例会

令和六年六月二六日（水）

一九：〇〇から

ふろくやと歴史館
(摩周観光文化センター)

・勉強会

・演題

「松浦武四郎さんの

屈斜路コタン滞在記

現代の武四郎さんといソリツカラの心友物語を添えて」

講師 斎藤敬子さん

- 1) 現代の松浦武四郎さんって、どんな人？
～おそらく性格もそっくり!?～
- 2) 「久摺日誌」だけでは、わからないこと
～イソリツカラという人名はどこに?～
- 3) 「久摺日誌」から、わかること
～3日間も滞在してくれたので～
- 4) 武四郎さんに教わったこと
～テシカガという地名は“岩盤の上”で良いのか!?…などなど～
- 5) 後世へ伝えたいこと
～屈斜路湖畔で刻まれてきたアイヌの生き様～

情報提供

「阿寒摩周国立公園90周年」を記念した特別展が川湯ビジターセンターで六月一日から開催されます。

国立公園に指定される前の風景写真を「絵はかき」にしたもので、川湯ビジターセンターでは展示される写真と同じ場所から今の風景写真も併せて展示する計画とのことです。

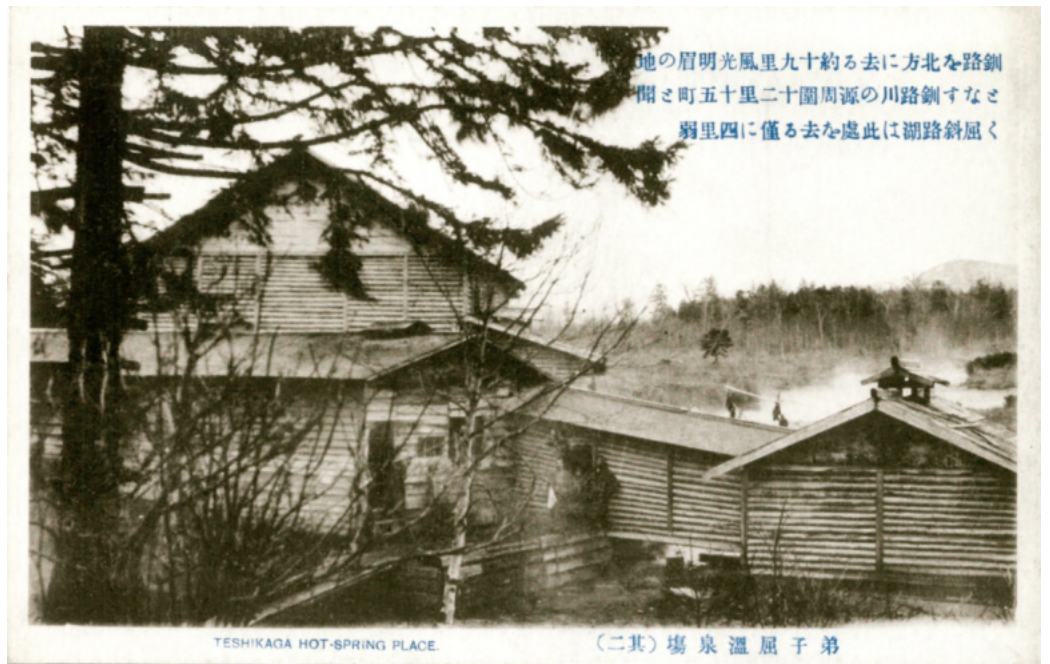


むかしむか史写真館

以前に知人から「弟子屈」が写っているから、と頂いた写真（絵はがき？）です。

年代は不明ですが、キャプションには、

「釧路を北方に去る約九十里風光明媚の地となす釧路



地の層明光風里九十約る去に方北を路釧
開と町五十里二十圍周源の川路釧すな
弱里四に僅る去な處此は湖路斜風く

TESHIKAGA HOT-SPRING PLACE

(二其)場泉温屈子弟

川の源周圍十二里五町と聞
く屈斜路湖は此處を去る僅
に四里弱「弟子屈温泉（其
一） TESHIKAGA HOT-SPRING
PLACE
と書かれています。

写真のキャプションには

には「弟子屈温泉」とあり
ますが、年代を大正から昭
和の初めころであるうと見
積もると、周りの風景から
「弟子屈温泉」ではなく「
川湯温泉」ではないか、と
判断しました。

宿の名称も不明です。屋
根に湯気抜きがみえる風呂
場へ向かう廊下が護岸をさ
れた上を渡っていて、温泉
が流れる小川ではないか、
その向こうに湯けむりが見
え、林の向こう側に見える
山はマクワンツチサツプ
（日本語名ーかぶと山）で
はないか、と思うのです。
皆さんはどう判断されます
か？

いずれにしても、弟子屈に
関する古い写真を探し集め
て検証しなくてはなりません。

松橋 筆



腹をすかせた賢き者は馬を
使って畑を耕すが、腹をす
かせた愚か者は馬を喰う。